

平成27年度佛教大学法然仏教学研究センター活動報告

第一部門 (1) 法然文献班

元亨版『和語燈録』本文・現代語訳対照本作成

班長 角 野 玄 樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏	仏教学部（浄土学・日本仏教文化史）
市川 定敬	仏教学部（法然浄土仏教思想研究）
角野 玄樹	佛教大学非常勤講師（法然文献研究・法然思想研究）
齋藤 蒙光	東海学園大学共生文化研究所講師（法然浄土教）

平成27年度の研究

本紀要前号所載の活動報告において示したように、当班は、元亨版『和語燈録』の本文・現代語訳註本を完成させる目的で研究活動を行っている。また、当班は、故岸一英教授の追悼出版の後方支援するためのものであり、その基となるものが、佛教大学四条センターで行われた『和語燈録』の連続講義の担当者（岸一英氏、藤堂俊英氏、眞柄和人氏、本庄良文氏、安達俊英氏、善裕昭氏、伊藤真宏氏、角野）が作成した現代語訳や資料である。

昨年度に続き、その現代語訳のうち、故岸教授の作成した現代語訳の検討及び本文訳註対照表作成を行い、本年度途中に、一応の区切りをつけた。

その次の研究として、当班研究構成員でもあり、上記『和語燈録』連続講義の担当者の一人である伊藤真宏氏がその連続講義の際に作成した現代語訳を、当班で検討している。更に、その現代語訳検討のあと、本文訳註対照表の作成を行っている。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

日 時 平成27年1月16日(金) 16:15～17:20

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 班員4名

内 容 岸教授担当訳の検討（「要義問答 その二」の「永観のいはく」から末尾まで。）

日 時 平成27年4月3日(金) 16:00～17:30

場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員4名
内 容 岸教授担当訳の検討（「大胡太郎実秀へ遣わす御返事 その二」の冒頭から末尾まで、及び「大胡太郎実秀が妻室のもとへ遣わす御返事 その二」の冒頭から「よくよく申させ給ふべし。」まで。）

日 時 平成27年4月22日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 岸教授担当訳の検討（「大胡太郎実秀が妻室のもとへ遣わす御返事 その二」の「又釈迦如来この経の中に」から末尾まで、及び「登山状（その四）」の冒頭から「ただちにむまるる事あたはず。」まで。）

日 時 平成27年4月29日(水) 10:45～11:30
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 岸教授担当訳の検討（「登山状（その四）」の「しかるをいま浄土を荘厳し」から「大悲の本意にあらず。」まで。）

日 時 平成27年5月15日(金) 13:00～14:15
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員4名
内 容 岸教授担当訳の検討（「登山状（その四）」の「しかるをいま浄土を荘厳し」から「願にこたへてむまるる事をうべし。」まで。）

日 時 平成27年5月27日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 岸教授担当訳の検討（「登山状（その四）」の「名号をとなへばむまるべき別願をおこして」から「この一願をうたがふべけんや。」まで。）

日 時 平成27年6月10日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名

内 容 岸教授担当訳の検討（「登山状（その四）」の「法蔵比丘いまだほとけになり給はず
といはば」から末尾まで、及び「後序・語燈録瑞夢事」の冒頭から「中々にいふに
たらぬ物ども也。」まで。）

日 時 平成27年6月24日(水) 10:45～12:00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 4名（研究員1名、班員3名）

内 容 岸教授担当訳の検討（「後序・語燈録瑞夢事」の「およそ二十余年のあひだ」から
末尾まで。）

日 時 平成27年7月8日(水) 10:45～12:10

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 4名（研究員1名、班員3名）

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「御誓言の書」全て及び、「往生大要抄（七）」の冒頭から
「皆当得生彼といへり。」まで。）

日 時 平成27年7月15日(水) 10:45～12:00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 班員3名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「往生大要抄（七）」の「この二つの心をもて」から「こまか
に申しひらくべし。」まで。）

日 時 平成27年9月30日(水) 10:45～12:00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 4名（研究員1名、班員3名）

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「往生大要抄（七）」の「またひくところの疏の文を」から末
尾まで、及び「念仏往生要義抄（三）」の冒頭から「いかでかひとしかるべきや。」
まで。）

日 時 平成27年10月7日(水) 10:45～12:00

場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 4名（研究員1名、班員3名）

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「念仏往生要義抄（三）」の「答、このうたがひは一声十声と
申す事は」から「沙汰におよばぬ事也。」まで。）

日 時 平成27年10月16日(金) 13:00～14:15
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 6名(研究員1名、嘱託研究員1名、班員4名)
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「念仏往生要義抄(三)」の「問ていはく、摂取の益をかうぶる事は」から「一仏浄土のともたらむ。」まで。)

日 時 平成27年10月21日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 3名(研究員1名、班員2名)
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「念仏往生要義抄(三)」の「このたび輪廻のきづなを」から末尾まで、及び「三心義 その三」の冒頭から「勧進等の一切の行なり。」まで。)

日 時 平成27年10月28日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「三心義 その三」の「この正助二行につきて」から末尾まで、及び「念仏大意 その一」の冒頭から「まづこの道理をよくよく心うべき也。」まで。)

日 時 平成27年11月4日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 班員3名
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「念仏大意 その一」の「すべて天台法相の経論も教も」から末尾まで、及び「念仏大意 その六」の冒頭から「あひたてまつりたりけん。」まで。)

日 時 平成27年11月18日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室
参加者 4名(研究員1名、班員3名)
内 容 伊藤氏担当訳の検討(「念仏大意 その六」の「ただ不信にして教化にもれきたれる」から末尾まで。)

日 時 平成27年12月2日(水) 10:45～12:00
場 所 8号館伊藤真宏研究室

参加者 班員 3 名

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「念仏大意 その六」の「懈怠不信にしては、中々行ぜざらんよりも」から「往生の因となる事、うたがひなし。」まで。）

日 時 平成27年12月11日(金) 16：10～17：20

場 所 8 号館伊藤真宏研究室

参加者 5 名（嘱託研究員 1 名、班員 4 名）

内 容 伊藤氏担当訳の検討（「念仏大意 その六」の「彼仏因中立弘誓」から末尾まで、及び「浄土宗略抄 その五」の冒頭から「それによりて一念もうたがふべからず。」まで。）

第一部門 (1) 法然文献班 桑門秀我『選擇本願念佛集講義』現代語訳

班長 本 庄 良 文

研究組織および専門分野

本年度より、上野忠昭氏を正式の研究員として迎えることができた。よって、現在、班員は以下の二人である。

本庄 良文 仏教学部（浄土学・仏教学）

上野 忠昭 浄土宗浄願寺副住職（中国仏教・法然浄土教）

平成27年度の研究

全16章のうち、第1章の一部、第3—6章、第13—15章、第16章の一部を本庄が、それ以外を上野が受け持ち、全体の準備原稿は昨年度すでに完成している。全体の修正作業を上野が本年に至るまで継続してきたが、今年度、上野が、序文に当る「大意」と第7章を、本庄が第13章を、それぞれサンプルとして公表することとした。ただし、準備原稿には、①『選択集』本文、②同、読み下し、③現代語訳（善裕昭・本庄良文による四季社版、傍訳『選択本願念仏集』訳）、④桑門講義本文、⑤同、現代語訳のすべてをデータ化していたが、今回公表する際には、②、③を省略した。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

互いに遠距離であることから、従来、班としては行っていない。本年は、上野が全体会に出席することの出来る折に、公表する原稿の基本原則を話し合ってきた。普段は、昨年同様、インターネットの掲示板等で、随時、進行状況を確認している。

第一部門 (2) 『逆修説法』班

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

眞柄 和人	知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（法然仏教伝承過程）
齋藤 蒙光	東海学園大学共生文化研究所講師（法然浄土教）
吉原 寛樹	佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻修士課程修了（『逆修説法』研究）
岩谷 隆法	佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（法然文献）

平成27年度の研究

善照寺本『古本漢語燈録』巻七を基礎資料として、他の諸本の本文を参照、比較対照しながら、『逆修説法』の翻刻・現代語訳・註釈を完成させる作業を行っている。平成26年度の研究会で『写真集成本』（浄土宗総合研究所編『黒谷上人語燈録写真集成』1）218頁10行目までの作業が終了し、平成27年度は、引き続き下記のごとく研究会がおこなわれている。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

日 時 1月9日(金) 13:30～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当 『写真集成本』218頁10行目～221頁9行目
頭燃を「拂う」・「救う」という表現について討議。

日 時 1月23日(金) 13:30～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員3名（眞柄、齋藤、吉原）

内 容 齋藤蒙光担当 『写真集成本』221頁9行目～223頁6行目
分担箇所訓読を諸本と対照して討議。

日 時 2月20日(金) 12:30～14:00

場 所 別館401号室

参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 齋藤蒙光担当 『写真集成本』223頁6行目～224頁9行目

分担箇所の訓読を諸本と対照して討議。

岩谷隆法担当 『写真集成本』224頁9行目～226頁4行目
四生（化生）の現代語訳について討議。

日 時 2月27日(金) 14:00～16:00

場 所 別館401号室

参加者 班員3名（眞柄、齋藤、岩谷）

内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』226頁4行目～229頁2行目
白毫の利益について出典等を討議。

日 時 3月27日(金) 13:00～15:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 岩谷隆法担当 『写真集成本』229頁2行目～232頁3行目
孝養父母の典拠『孝経』の内容について討議。

日 時 5月22日(金) 13:00～15:00

場 所 別館401号室

参加者 班員3名（齋藤、吉原、岩谷）

内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』232頁3行目～235頁1行目
訳注における經典名の表記の統一について討議。

日 時 10月2日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』235頁1行目～238頁2行目
順璟法師について討議。

日 時 10月9日(金) 13:00～14:30

場 所 別館401号室

参加者 班員4名（眞柄、齋藤、吉原、岩谷）

内 容 吉原寛樹担当 『写真集成本』238頁3行目～239頁2行目
分担箇所の訓読を諸本と対照して討議。
齋藤蒙光担当 『写真集成本』239頁3行目～240頁9行目

『浄土三部経』に説かれる「宝地」の法然上人の解釈について討議。

日 時 10月23日(金) 13:00～14:30

場 所 佛教大学別館401号室

参加者 班員 4 名 (眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成本』240頁 9 行目～245頁 3 行目
浄土の莊嚴について討議。

日 時 11月27日(金) 13:00～14:30

場 所 佛教大学別館401号室

参加者 班員 4 名 (眞柄、齋藤、吉原、岩谷)

内 容 齋藤蒙光担当『写本集成本』245頁 3 行目～249頁 4 行目
担当箇所訓読と現代語訳について討議。

日 時 12月4日(金) 13:00～14:30

場 所 佛教大学別館401号室

参加者 班員 3 名 (眞柄、齋藤、岩谷)

内 容 岩谷隆法担当『写本集成本』249頁 5 行目～251頁 5 行目
小声念仏の典故について討議。

第二部門 (3) 『摧邪輪』班

班長 米 澤 実江子

研究組織および専門分野

中御門敬教 佛教大学非常勤講師（インド・チベット浄土教／顕密の浄土教）
米澤実江子 浄土宗総合研究所嘱託研究員（日本仏教〔中世〕）

平成27年度の研究

『摧邪輪』には数本の写刊本が存在し、既に寛永年間版本を底本とした、書き下し（全）・校補注（全）・現代語訳（巻上）が公にされている。当班では平成25年度より寛永年間版本巻中からの書き下し・注・訳の確認作業を始め、平成26年度9月以後は研究会を開催せず、米澤が確認作業を継続している。

研究進捗報告（平成27年1月～12月）

◆平成26年度（1月～）

- 1月：～38丁裏：付註・書き下しの検討。
- 2月：～41丁裏：付註・書き下しの検討。
- 3月：～43丁裏：付註・書き下しの検討。

◆平成27年度

- 4月：「第4の批判」：付註・書き下し・現代語訳の検討。
- 5月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（29丁ウ3行～）の検討。
- 6月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（31丁ウ3行～）の検討。
- 7月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（33丁ウ6行～）の検討。成果報告掲載分準備。
- 8月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（34丁ウ4行～）の検討。成果報告掲載分準備。
- 9月：『法然仏教学研究センター紀要』第2号掲載分報告準備。
- 10月：『法然仏教学研究センター紀要』第2号掲載分報告準備、提出。
- 11月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（～35丁ウ8行）の検討。
『法然仏教学研究センター紀要』2号原稿再提出に向けての作業。
- 12月：「第5の批判」：付註・書き下し・現代語訳（～39丁オ3行）の検討。

第二部門 (4) 門下班

班長 伊 藤 茂 樹

研究組織および専門分野

伊藤 真宏 佛教大学 仏教学部 准教授（浄土学、日本仏教文化史）

伊藤 茂樹 法然仏教学研究センター嘱託研究員（日本浄土教、浄土宗学）

平成27年度の研究

研究班の始動が平成26年10月以降と遅かったが、本年度は、方針を模索する段階から、データ化等の作業を行い、少しずつ前進している状況である。これまでの研究目録を見直しつつ、作業を進めている。

目録作成は、機械的な作業で、安易にすすめられるという見方もあろうが、やはり相当の知識や理解は必要である。たとえば、浄土宗蔵（玉桂寺旧蔵）阿弥陀如来像の胎内文書の発見は、これまでの源智研究にない、勸進聖としての側面が見いだされ、研究が飛躍的に展開することになったが、仏像の美術研究、結縁校名にまつわる地域史研究等からも研究が進められ、多岐な分野から進められている。一定の水準でそれらの研究動向を知り、目録作成に生かす必要があろう。

研究員、協力者ともに知識や理解不足な点が多いため、それぞれの分野に近い範囲で課題をもうけ、研究動向の発表を行った。内容は研究会の開催で示した通りである。

源智研究は、『選択要訣』等の著作問題や、亡くなる二日前に源智が依頼した「一枚起請文」、源智系がまとめたとする『醍醐本』等、様々な課題が見られる。関連のある分野を本学大学院博士課程杉山憲哉氏、修士課程修了の齊藤善昭氏、加藤良全氏の3名の研究協力者がまとめて発表した。

研究のながれをさぐり、また問題点を追求するという積極的な姿勢で進めている。本年度は、源智や隆寛を中心の課題として進めている。

研究会の開催

日 時 平成27年4月14日(火) 16:00～17:30

場 所 佛教大学8号館 伊藤真宏先生研究室

出席者 伊藤真宏、伊藤茂樹、杉山憲哉、齊藤善昭、加藤良全

内 容 門下研究データ入力について。役割分担やこれまでの目録関係の収集を図書館にて行う。

日 時 平成27年5月19日(火) 16:00～18:00
場 所 法然仏教学研究センター研究室(別館4階)
出席者 伊藤茂樹、杉山憲哉、齊藤善昭、加藤良全
内 容 目録作成上の問題点の話し合い。特にエクセルに入力時の規則。統一性など話し合い。

日 時 平成27年6月16日(火) 16:00～18:00
場 所 法然仏教学研究センター研究室(別館4階)
出席者 伊藤真宏、伊藤茂樹、杉山憲哉、齊藤善昭、加藤良全
内 容 源智研究について検討。大学院博士課程杉山憲哉氏が、これまでの源智研究の状況をまとめと題して、「法然門流の研究―勢観房源智について」問題点等を発表。出席者と質疑応答。源智研究の概況を班員全員で積極的に話し合いました。あとは目録作成の問題点の確認。

日 時 平成27年7月21日(火) 16:00～18:00
場 所 法然仏教学研究センター研究室(別館4階)
出席者 伊藤真宏、伊藤茂樹、杉山憲哉、齊藤善昭、加藤良全
内 容 源智研究について検討。本学大学院修士課程修了加藤良全氏、源智と一枚起請文の関係、源智の著述について発表。著述についてはより多くの問題点があると確認した。一枚起請文については、加藤氏の修士論文の成果もふまえ見解を述べられた。目録作成についての問題点を話し合い。

日 時 平成27年9月29日(火) 16:00～19:00
場 所 法然仏教学研究センター研究室(別館4階)
出席者 伊藤茂樹、齊藤善昭、加藤良全
内 容 源智研究について検討。齊藤善昭氏が、源智の浄土宗蔵(旧玉桂寺蔵)の阿弥陀如来像の研究のまとめを発表。美術、地域史等の研究分野をどう取り入れるか等の課題が見えた。発表後、議論を行った。発表終了後、図書館にて作業。

日 時 平成27年11月6日(金) 16:00～18:00
場 所 法然仏教学研究センター研究室(別館4階)
出席者 伊藤茂樹、杉山憲哉、齊藤善昭
内 容 目録作成における問題点の話し合い。入力データを見直し、研究の動向の総合的な分析を行う。

第二部門 (5)『往生要集鈔』関係班 『往生要集鈔』『往生要集義記』

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

本庄 良文（浄土学・仏教学）

南 宏信（仏教文献学（浄土学））

平成27年度の研究

- ・『往生要集義記』現代語訳
適宜作業中である。
- ・『往生要集鈔』諸本の翻刻
現在第1巻の諸本対照表を作成中である。
来年度は4巻まで完成予定である。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

第二部門 (6) 中国関係班

班長 齊 藤 隆 信

研究組織および専門分野

齊藤隆信	仏教学部（浄土教思想、中国仏教）
曾和義宏	仏教学部（浄土学、中国浄土教理史）
加藤弘孝	知恩院浄土宗学研究所（中国仏教、浄土教思想）
永田真隆	文学研究科博士後期課程浄土学専攻満期退学（往生伝研究）

平成27年度の研究

毎回の研究会では『安樂集』の訳註を作成している。同書の訳註はこれまでも数回報告されているが、今回改めて訳註班を立ちあげたのは、宗典研究にありがちな依義判文や望文生義への反省がこめられている。ただし、班員はこれらをすべて否定し排除するのではなく、『安樂集』をいったん漢籍として、その語彙語法に注意を払いながら、一字一句ゆるがせにせず精読することにつとめている。なお今年度は杉山裕俊氏（大正大学総合仏教研究所）、小川法道氏（佛教大学大学院修士課程）も参加し、概ね隔週で研究会を開催した。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

【平成26年度】

第12回（通算30回）研究会

日 時 1月16日（金）13：00～14：30

内 容 「第九據摂論与此経相違～復加愛樂」（第2大門 破異見邪執）の訳註

第13回（通算31回）研究会

日 時 1月30日（金）13：00～14：30

内 容 「以此諸経来驗～一日至千里也」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第14回（通算32回）研究会

日 時 2月20日（金）13：00～14：30

内 容 「第三亦如下賤貧人～是事不然」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

【平成27年度】

第1回（通算33回）研究会

日 時 4月10日（金）10：40-12：10

内 容 「問曰大乘経云～是名在縁」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第2回（通算34回）研究会

日 時 5月1日(金) 10:40-12:10

内 容 「三云何在決定者～此亦依聖經」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第3回（通算35回）研究会

日 時 5月22日(金) 10:40-12:10

内 容 「又問曰今欲依勸行～不須疑也」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第4回（通算36回）研究会

日 時 6月12日(金) 10:40-12:10

内 容 「又問曰無量寿大經～何不予剋念也」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第5回（通算37回）研究会

日 時 6月26日(金) 10:40-12:10

内 容 「又問曰諸大乘～自然而滅也」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第6回（通算38回）研究会

日 時 7月17日(金) 10:40-12:10

内 容 「又問曰依何身故～無有是処」（第2大門 破異見邪執、広施問答）の訳註

第7回（通算39回）研究会

日 時 10月2日(金) 13:00～14:30

内 容 「第三大門中～故曰難行道」（第3大門 弁難行道易行道）の訳註

第8回（通算40回）研究会

日 時 10月16日(金) 13:00～14:30

内 容 「言易行道者～不勞具述」（第3大門 弁難行道易行道、時劫大小不同）の訳註

第9回（通算41回）研究会

日 時 11月20日(金) 13:00～14:30

内 容 「第三門中有五番～不放逸為本」（第3大門 從無始世劫受生無數）の訳註

第10回（通算42回）研究会

日 時 12月18日(金) 13:00～14:30

内 容 「第二問曰～座下曾受教法」（第3大門 第三門中有五番）の訳註

第三部門 (7) 伝宗伝戒班 『真葛伝語』諸本蒐集および教理的根拠の探索

班長 眞 柄 和 人

研究組織および専門分野

眞柄 和人 知恩院浄土宗学研究所嘱託研究員（浄土仏教学）
高津 晴生 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学
（浄土宗における戒）
武田 真享 佛教大学大学院文学研究科浄土学専攻博士後期課程満期退学（厭欣思想）

平成27年度の研究

伝書のひとつである『真葛伝語』の本文を確定しながら訳注を行っている。
また研究員の個別の関心に応じて、七祖聖罔の思想や菩薩戒の研究を進めている。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

日 時 1月16日(金) 10時00分～12時00分
場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室
出席者 眞柄、高津、武田、北川（院生）
範 囲 52頁2行「第六面上伝とは・・・」～4行「・・・熟視すべし」現代語訳（北川）
内 容 「面上」の語意の再検討をした。

日 時 2月16日(月) 11時00分～12時30分
場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室
出席者 高津、武田、北川（院生）
範 囲 52頁2行「第六面上伝とは・・・」～52頁7行「・・・十念の伝を以て伝へるなり」現代語訳（北川）
内 容 伝法上での「面上」と『釈浄土二藏義』の「面上」との語意について再確認し、今回の範囲の現代語訳について検討した。

日 時 3月16日(月) 13時00分～16時00分
場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室
出席者 眞柄、高津、武田
範 囲 前回研究会の内容確認

52頁7行「扱て、其の伝ふる趣と云ふは・・・」～54頁2行「・・・口外すべからざるものなり」本文入力と現代語訳（北川のレジュメをもとに）

内 容 「総別十念伝」について検討した。

日 時 4月10日（金）13時00分～15時00分

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田

範 囲 52頁2行～54頁2行の現代語訳の再検討

54頁3行「扱て、此の伝を・・・」～56頁6行「・・・渉らぬことと見えたり」本文入力確認（武田）

内 容 第六面上伝（52頁2行～54頁2行）の現代語訳の最終確認

日 時 平成27年5月8日（金）13：00～16：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田

範 囲 54頁3行「扱て、此の伝を・・・」～56頁6行「・・・渉らぬことと見えたり」の現代語訳（武田）

内 容 面上伝の顕伝と密伝について 特に密伝での授受作法の正統性について討論した。

日 時 平成27年6月12日（金）13：00～15：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田

範 囲 56頁6行「然るに問師の・・・」～58頁9行「・・・有る故なり。」本文入力確認と現代語訳（高津）

内 容 面上伝の中、口授心伝の内容について確認した。

日 時 平成27年7月3日（金）13：00～15：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田、北川（院生）

範 囲 58頁9行「有る人、難じて・・・」～60頁7行「・・・掃蕩するもあり。」本文入力確認と現代語訳（武田）

内 容 面上伝の中、十念伝と遺誓の趣旨の相違について討論した。

日 時 平成27年7月10日（金）13：00～15：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田、北川（院生）

範 囲 60頁7行「予も中年来・・・」～62頁6行「・・・外にする事勿れ」（高津）

内 容 面上伝の正当性のまとめ。

面上伝について『五重口伝抄』と「朱切紙」、さらに別の「切紙」に趣旨が示されることを確認した。

良暁上人の起請文にもこれ等の内容が示されているとあるが、この文献の詳細不明。

日 時 平成27年10月2日（金）15：00～16：15

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田、本庄

範 囲 62頁7行「第七三種病人伝とは、・・・」～64頁8行「・・・不同有る事なし」本文入力と現代語訳（武田）

内 容 「直信直授」、「撥（発）迹入源（玄）」、「智解悟解」、「機情」等の語意について討論した。

日 時 平成27年10月9日（金）15：00～16：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田

範 囲 64頁9行「第八未回心声聞伝とは、・・・」～66頁6行「・・・化他の伝とす。知るべし。」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 「未回心声聞伝」の中で「無菩提心の往生」、「化他の伝」等の意味について討論した。

日 時 平成27年11月13日（金）15：00～17：00

場 所 佛教大学 8号館1階 共同資料室

出席者 眞柄、高津、武田

範 囲 66頁7行「第九氣息伝とは、・・・」～68頁6行「・・・此の伝を用ゐるなり」本文入力と現代語訳（武田）

内 容 「氣息（気続）伝」の中、もともと「逆者」に対する臨終の伝であったものから、「普通の人」の臨終にも用いる伝へと展開されるに至った内容。

臨終に「十念」を受ける方法の確認。

日 時 平成27年12月11日（金）15：00～16：00

場 所 佛教大学 8号館2階 共同資料室

出席者 高津、武田、吉原

範 囲 68頁6行「一期大要秘密集、・・・」～69頁9行「・・・後賢、正し玉へ」本文入力と現代語訳（高津）

内 容 「氣息（氣続）伝」の中、覚鑒『一期大要秘密集』に基づく臨終者に対する具体的な伝授方法の確認と「氣息」の名称についての確認。

第三部門 (7) 伝宗伝戒班 聖岡撰『決疑鈔直牒』身延文庫本の研究

班長 南 宏 信

研究組織および専門分野

南 宏信（仏教文献学（浄土学））

平成27年度の研究

以下の研究会・学会において発表を行った。

① 〈平成27年度知恩院浄土宗学研究所集中研究会〉

日 時 2015年9月11日(金)

場 所 知恩院 和順会館

題 目 「聖岡『決疑鈔直牒』の研究—版本系統と身延文庫本—」

※発表の一部は「慶安三年版『決疑鈔直牒』に見る跋文の問題」と題して『東山研究紀要』第60集に掲載予定である。

② 〈日本印度学仏教学会 第66回学術大会〉

日 時 2015年9月20日(日)

場 所 高野山大学

題 目 「身延文庫蔵『決疑鈔釋議』断簡の一考察」

※本発表は同題目で『印度学仏教学会』第64巻に掲載予定である。

※上記研究発表は平成27年～30年度科学研究費助成事業・若手研究（B）「中世における新出写本の文献学的研究」課題番号15K16621における研究成果の一部である。

研究会の開催（平成27年1月～12月）

班別研究会は開催していない。

平成27年度佛教大学法然仏教学研究センター講演会

日 時：平成27年7月11日(土) 13：30～16：00

会 場：佛教大学紫野キャンパス常照ホール（成徳常照館5階）

講 題：どうして私に一枚起請文が分かるようになったのか

講 師：村上真完（東北大学名誉教授）

■プログラム

13：30 挨拶（田中典彦法然仏教学研究センター長、学長）

13：45 講演（村上真完）

15：15 質疑応答

司 会：市川定敬（仏教学部講師）

法然仏教学研究センター組織

センター長	田中 典彦				
研究推進機構会議委員	藤井 透*	大西磨希子	坂井 健	李 昇燁	
	中道 泰子	山本 奈生	植田 章	松岡 千代	
	水谷 俊之	森 智女	鳥羽 典子		
	國枝 利行**	岸田稔穂子**			
運営会議構成員	田中 典彦*	本庄 良文	齊藤 隆信	伊藤 真宏	
	曾和 義宏	大西 伸江			
	岸田稔穂子**	山本 博子**			
職 員	大西 伸江	山口 乾	山本 博子		

(* は委員長、 ** はオブザーバー)

研 究 組 織

■「法然仏教の多角的研究」

研究員	本庄 良文	嘱託研究員	角野 玄樹
研究員	齊藤 隆信	嘱託研究員	南 宏信
研究員	伊藤 真宏	嘱託研究員	齋藤 蒙光
研究員	曾和 義宏	嘱託研究員	加藤 弘孝
研究員	市川 定敬	嘱託研究員	永田 真隆
嘱託研究員	眞柄 和人	嘱託研究員	吉原 寛樹
嘱託研究員	上野 忠昭	嘱託研究員	高津 晴生
嘱託研究員	中御門敬教	嘱託研究員	岩谷 隆法
嘱託研究員	伊藤 茂樹	嘱託研究員	武田 真享
嘱託研究員	米澤実江子	学術研究員	杉山 憲哉

活動記録 (平成27年1月～12月)

平成27年度

- 1月9日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
14日(水) 第14回研究推進機構会議
16日(金) 第6回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
23日(金) 第5回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
28日(水) 第15回研究推進機構会議
30日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
2月12日(木) 第16回研究推進機構会議
16日(月) 研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
20日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
27日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
3月16日(月) 研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
17日(火) 第17回研究推進機構会議
27日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)

平成28年度

- 4月3日(金) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
10日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
13日(月) 第1回法然仏教学研究センター運営会議
第1回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
14日(火) 研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
15日(水) 第1回研究推進機構会議
22日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
29日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
5月1日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)

- 8日(金) 研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 13日(水) 第2回研究推進機構会議
- 15日(金) 第2回法然仏教学研究センター運営会議
第2回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 19日(火) 研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
- 22日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
- 27日(水) 第3回研究推進機構会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 6月10日(水) 第4回研究推進機構会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 12日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 16日(火) 研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
- 22日(月) 第3回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 24日(水) 第5回研究推進機構会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 26日(金) 第3回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
- 7月3日(金) 第4回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 8日(水) 第6回研究推進機構会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 10日(金) 研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 11日(土) 法然仏教学研究センター講演会
- 15日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 17日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
- 21日(火) 研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
- 22日(水) 第7回研究推進機構会議
- 9月9日(水) 第8回研究推進機構会議
- 18日(金) 第5回法然仏教学研究センター運営会議
- 29日(火) 研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
- 30日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)

- 10月2日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 7日(水) 第9回研究推進機構会議
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 9日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 16日(金) 第4回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
- 21日(水) 第10回研究推進機構会議
- 23日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
- 28日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 11月4日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 6日(金) 第6回法然仏教学研究センター運営会議
研究会(第2部門(4)門下班「門下研究目録作成」)
- 11日(水) 第11回研究推進機構会議
- 13日(金) 研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 16日(月) 第5回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
- 18日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 20日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)
- 27日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
- 12月2日(水) 研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
- 4日(金) 研究会(第1部門(2)逆修説法班『逆修説法』)
- 9日(水) 第12回研究推進機構会議
- 11日(金) 第6回法然仏教学研究センター研究会(法然仏教の多角的研究)
研究会(第1部門(1)法然文献班『和語燈録』)
研究会(第3部門(7)伝宗伝戒班『真葛伝語』)
- 18日(金) 研究会(第2部門(6)中国関係班『安楽集』)